

ネコギギ *Tachysurus ichikawai* (Okada et Kubota)

【選定理由】

愛知県内における生息地は極めて局所的であり、生息環境の悪化および開発により絶滅の危険性が極めて高い。

【形態】

体長 10cm。体形はやや太くて短い。背鰭と胸鰭にはそれぞれ各 1 本の棘状軟条をもち、4 対の口ひげがある。そのうち上顎のひげの 1 対は長く、胸鰭基部に達する。尾鰭後縁の切れこみは類似種のギギに比べると浅い。体色は黒褐色で、黄褐色の斑紋が入る。幼魚は明色斑が明瞭だが、成長に伴い不明瞭になる。成熟した雄には肛門の後ろに生殖突起が見られる。大きさには性的二型が見られ、雌よりも雄の方が大きくなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川、矢作川、庄内川の一支流。

【国内の分布】

愛知県、岐阜県、三重県。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

伊勢湾と三河湾に流入する河川の、中流域の平瀬から淵など流れの緩やかな場所に生息する。夜行性で日中は河岸のくぼみや岩の下の穴に潜み、夜間になると活発に索餌する。産卵期は 6 月～7 月頃で、卵はなわばりを形成した雄によって保護される。卵は 3 日ほどで孵化する。カゲロウや双翅類の幼虫を摂餌し、2 年で性成熟に達する。自然界での寿命は 3～5 年といわれているが、飼育下では 10 年程度生きる個体もいる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内の主要河川の本流の中上流部やその支流等に生息するが、生息域および生息個体数が減少傾向にある。特に、ダム下流では激減している。主な減少要因は、生息域周辺の開発（河川改修、ダム・堰堤の造成）、水質汚濁、国内外来種ギギとの競争などが挙げられる（渡辺・森, 2012）。また、河川内に設置された堰などの人工構造物による河川の分断化が個体群の遺伝的多様性の低下を引き起こすことも懸念されている。

【保全上の留意点】

生息環境の保全が極めて重要であり、そのうえで生息場所および個体数の正確な把握が急務である。本種は、夜行性のため昼間の調査では確認できない場合が多い。生息する河川の改修を想定する場合は、入念な生息調査、施工前後のモニタリングが必須である。近年では、ネコギギに配慮した河川改修などの実施事例もあるため、それらを参考にして工事を進めることが望ましい。飼育下での繁殖は非常に難しいため、生息環境における域内保全が最善の策といえる。

【特記事項】

昭和 52 年に国の天然記念物に指定されている。愛知県内では、矢作川水系は碧南海浜水族館、豊川水系は国土交通省が中心となり、飼育繁殖による生息域外保全が実施されている。

【引用文献】

渡辺勝敏・森 誠一, 2012. ネコギギ：積極的保全に向けたアプローチ. シリーズ・日本の希少魚類の現状と課題. 魚類学雑誌, 59(2): 168-171.

【関連文献】

渡辺勝敏, 1998. ネコギギ. 日本の希少淡水魚の現状と系統保存, pp.122-132. 緑書房, 東京.
森 誠一・名越 誠, 2001. ネコギギ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海(編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 第三版, pp.408-409. 山と溪谷社, 東京.
細谷和海, 2013. ギギ科. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp.335, 1822. 東海大学出版会, 神奈川.
(地村佳純)